

# 第3回 環境史WG研究会

九州地方のケーススタディと通史

# 湯本プロ内での位置付け

- 草原の歴史
- 通史的な把握
- 文系分野と自然科学分野の協業

# 昭和の阿蘇



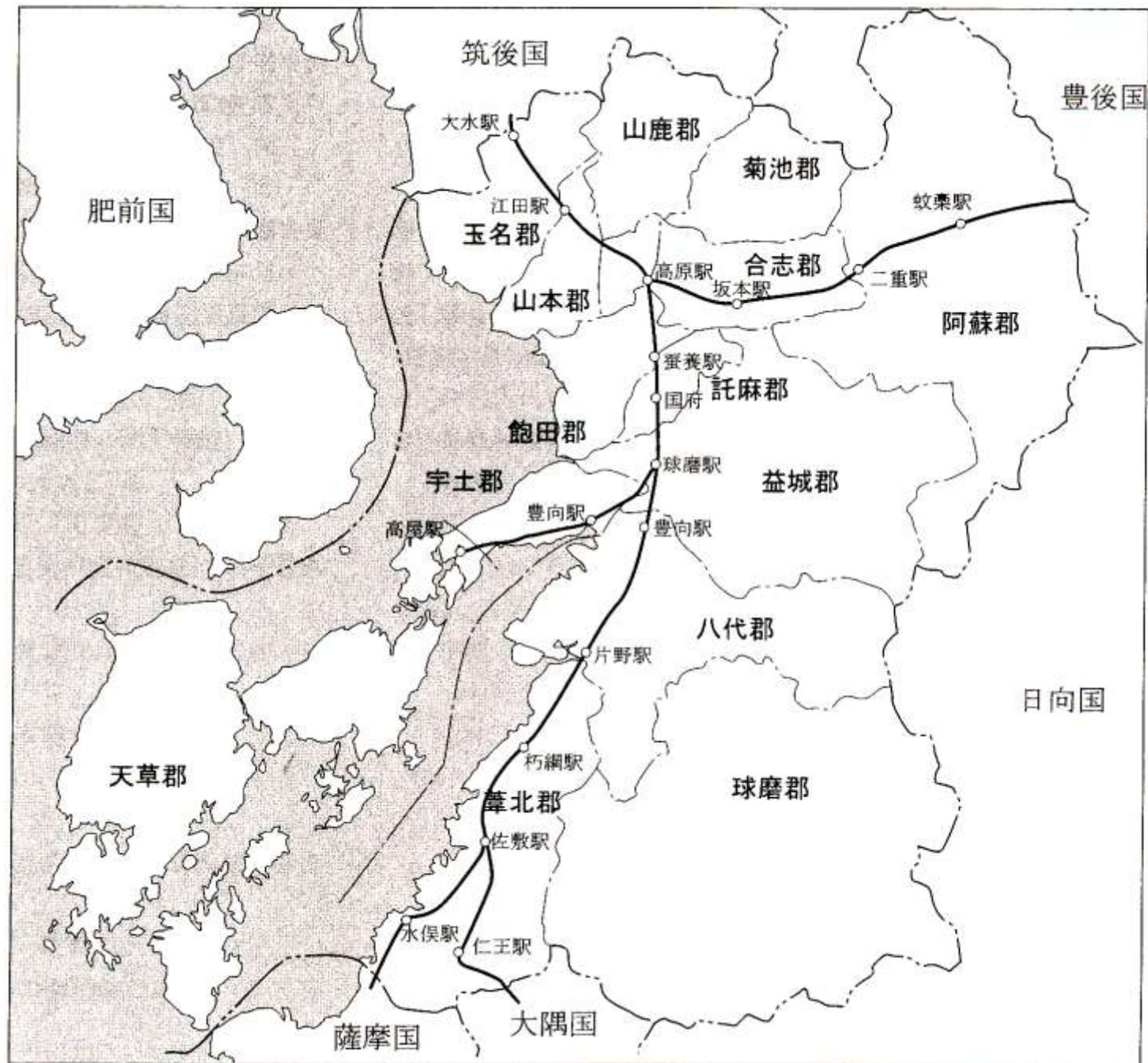


図1 全体図

年代  
(AD)

現代  
近代  
近世  
中世  
古代  
古墳  
弥生

2000  
1800  
1600  
1400  
1200  
1000  
800  
600  
400  
200

阿蘇草原利用年表

油粕・大豆粕の購入肥料に変化	入会地
秣・刈敷(草資源) 崔合(原野入会制度)	入会地
最後の下野狩(1582) 草木灰使用 下野狩実施文書(最古1469-1487) 端辺(原野)は大宮司領 狩倉記載(1194-1224) 富士の牧狩り 阿蘇下野牧狩伝梶原氏	狩獵地 半管理
『延喜式』 →二重馬牧・波良馬牧記載 『日本書紀』野は広く遠く、人家無し 条里制施行	局所的管理草地
	半管理?

8000年前  
30000年前  
~18000年前

縄文早期  
縄文草創期  
後期旧石器

阿蘇史

農地改革 地租改正	入会地
清正、阿蘇氏・坊中復興	入会地
最後の下野狩 古坊中焼失 →守護領国制 →封建制へ	阿蘇大宮司領有
阿蘇十二神 荘園整理令 阿蘇三神 壘田永年私財法 →荘園制へ 三世一身法 百万町歩壘田計画 条里制施行 班田收授法	荘園牧? 国営馬牧
阿蘇郡擬大領(大宝律令) 阿蘇評督(異本阿蘇系図) 国造(上御倉・下御倉古墳) 首長 中通古墳群 長目塚古墳	

阿蘇牛馬史

牛・馬の減少	食料動物
1893 馬の品種改良	農耕動物
1753 阿蘇山噴火で牛馬死 1694 牛の増加 1638 牛死(牛疫病)馬の増加	農耕動物
甲佐・健軍・郡浦三末社の支配権 ↑	軍事運搬動物
郡浦社文書(阿蘇家文書) 甲佐・健軍・郡浦三社傘下に ↑ 『延喜式』 →二重馬牧・波良馬牧記載 郡浦社創建? 緑川流域 牛骨出土 大宅牧(宇土) ↑ 大宝律令→馬医師記述	通信運搬動物
郡浦の製塩土器遺跡群 高句麗僧療馬の法を伝える 河内馬飼首荒籠(日本書紀) →一部屋北遺跡から 馬全身骨格・馬具の出土	威信財動物

阿蘇災害史

1832 阿蘇山 噴火でヨナ害 1826 阿蘇山 噴火・大洪水 1821 阿蘇山 鳴動 1753-1779 阿蘇山 噴火 →噴火飢饉 1691 阿蘇山 噴火	
1583 泥流で坊中被害	
1360 阿蘇社 焼亡	
1049 阿蘇社 焼亡	
864 神靈池 沸騰 840 神靈池 水位低下 823 阿蘇山 噴火 796 神靈池 枯涸	
553 阿蘇山 噴火? (隋書)(阿蘇家文書)	

## 阿蘇神社・阿蘇家年表

西暦	年号	関係事項	出典史料
794	延暦十三年	阿蘇神社で読経を行なう	類聚国史
796	延暦十五年	神霊池涸減	日本後紀
823	弘仁十四年	健磐神に従四位下、神戸20戸	日本紀略
840	承和七年	健磐龍命神従四位上、同年従三位	続日本後紀
847	承和十四年	国造神社を官社とする	続日本後紀
850	嘉祥三年	健磐龍命神 正三位	文徳実録
851	仁寿元年	健磐龍命神 従二位	文徳実録
852	仁寿二年	阿蘇比咩神 従四位下	文徳実録
854	斉衡元年	健磐龍命神に封戸30戸	文徳実録
864	貞観六年	神霊池沸騰	三代実録
867	貞観九年	比咩神山嶺に奇光	三代実録
868	貞観十年	阿蘇比咩神 正四位	三代実録
875	貞観十七年	阿蘇比咩神 従三位	三代実録
927	延長五年	肥後国四神のうち大神一座健磐龍命神社、小神二座比咩神社、国造神社	延喜式神名帳
1011	寛弘八年	国司、阿蘇郡四境注文作成	阿蘇家文書
1049	永承四年	阿蘇社焼亡	百鍊抄
1078	承暦二年	国司源朝臣、阿蘇郡四境注文の庁宣を下す	阿蘇家文書
1137	保延三年	鳥羽院御願寺安楽寿院造立、大宮司阿蘇惟宣より阿蘇社の年貢納入初例	阿蘇家文書
1159	平治元年	阿蘇社、安楽寿院新塔院領となる	安楽寿院文書
1180	治承四年	阿蘇惟泰、阿蘇・健軍大宮司補任	阿蘇家文書
1181	養和元年	惟泰、南郷大宮司と称し平家に背く	吾妻鏡
1194	建久五年	甲佐社神田・健軍社神田を片寄せ立券、一円社領とする	阿蘇家文書
1196	建久七年	領家および預所北条時政が阿蘇惟次を大宮司に補任する	阿蘇家文書
	年未詳	北条義時、阿蘇荘内の四箇所の狩倉について下知	阿蘇家文書
1228	安貞二年	北条義時、阿蘇惟義に大宮司職と南郷の村々を安堵	阿蘇家文書
1235	文暦二年	北条泰時、宇治亀熊丸(阿蘇惟景)に大宮司職と南郷八ヶ村を安堵	阿蘇家文書

1287	弘安十年	北条為時、阿蘇惟国に大宮司職と社領村々を安堵	阿蘇家文書
1329～ 1332	元徳元年～ 正慶元年	阿蘇社造営行われる	阿蘇家文書
1333	元弘三年	菊池武時・阿蘇惟直ら鎮西探題を攻撃	博多日記
		建武政府、阿蘇社の阿蘇郡一円支配を承認	阿蘇家文書
1335	建武二年	足利尊氏、建武政府に背き、阿蘇惟時、箱根・京都で尊氏方と戦う	阿蘇家文書
1336	建武三年	尊氏、一族坂梨孫熊丸を大宮司とする	阿蘇家文書
		大宮司惟直、多々良浜合戦で尊氏と合戦、敗北	阿蘇家文書
		惟時帰国し、大宮司に復帰対立	
1341	興国二年	恵良惟澄、孫熊丸を南郷城に攻める	阿蘇家文書
1351	正平六年	惟時、惟澄長子惟村に大宮司職を譲るが、事実上、惟澄が惣領・大宮司となる	阿蘇家文書
1362	貞治元年	幕府、惟村を肥後国守護職に補任	阿蘇家文書
1360	正平十五年	阿蘇社焼亡	阿蘇家文書
1364	正平十九年	惟澄、惟村に大宮司職を譲る	阿蘇家文書
		阿蘇社造営開始	阿蘇家文書
1369	正平二十四年	惟村、弟惟武と対立、北朝方(惟村)と南朝方(惟武)に分裂	阿蘇家文書
1404	応永十一年	阿蘇社造営	満願寺年代記
1423	応永三十年	惟村の子惟郷と惟武の孫惟兼、大宮司職を争い幕府に訴訟	阿蘇家文書
1451	宝徳三年	惟郷の子惟忠は惟兼の子惟歳を養子とし、阿蘇家合体成就	阿蘇家文書
1485	文明十七年	馬門原合戦、惟忠・惟憲方勝利、惟歳・惟家没落	相良家文書
1490	延徳二年	大宮司惟憲・下田能統、西野宮神社に梵鐘を奉納	梵鐘銘文
1491	延徳三年	下野狩日記成立	下野狩日記
1505	永正二年	菊池氏家臣ら大宮司惟長(惟憲子)を守護に推挙、惟長、菊池武経と称す	阿蘇家文書
1544	天文十三年	大宮司惟豊(惟長弟)、正三位に昇叙	阿蘇家文書
1582	天正十年	最後の下野狩実施	満願寺年代記
1583	天正十一年	阿蘇山の泥流で坊中被害本堂破壊	西厳殿寺文書
		阿蘇惟将(惟豊子)死去、弟惟種、任大宮司	
1584	天正十二年	惟種死去、子惟光嗣ぐ	
1593	文禄二年	豊臣秀吉、梅北の乱の処分として惟光を処刑	西厳殿寺文書
1601	慶長六年	加藤清正、阿蘇惟善(惟光弟)を阿蘇宮神主として阿蘇社を復興	阿蘇家文書

1593	文禄二年	豊臣秀吉、梅北の乱の処分として惟光を処刑	西巖殿寺文書
1601	慶長六年	加藤清正、阿蘇惟善(惟光弟)を阿蘇宮神主として阿蘇社を復興	阿蘇家文書
1607	慶長十二年	村山惟尚、下野狩日記書写	下野狩日記

# 九州地方のケーススタディと通史の シリーズ本刊行にあたっての課題

- 執筆者達の仕事を年表中に位置付ける。  
九州班→通史的な班
- 史実と環境史の接点の確定
- 各作業のタイムスケール観の認識差
- 民俗データの活用

巻頭に来る→刊行本の見出し的位置付け？

# 阿蘇郡 (破線は暫定線)

年代  
(AD)

0 5000 10000 15000 20000 25000 30000 40000 45000 50000 60000

2000

1800

1600

1400

1200

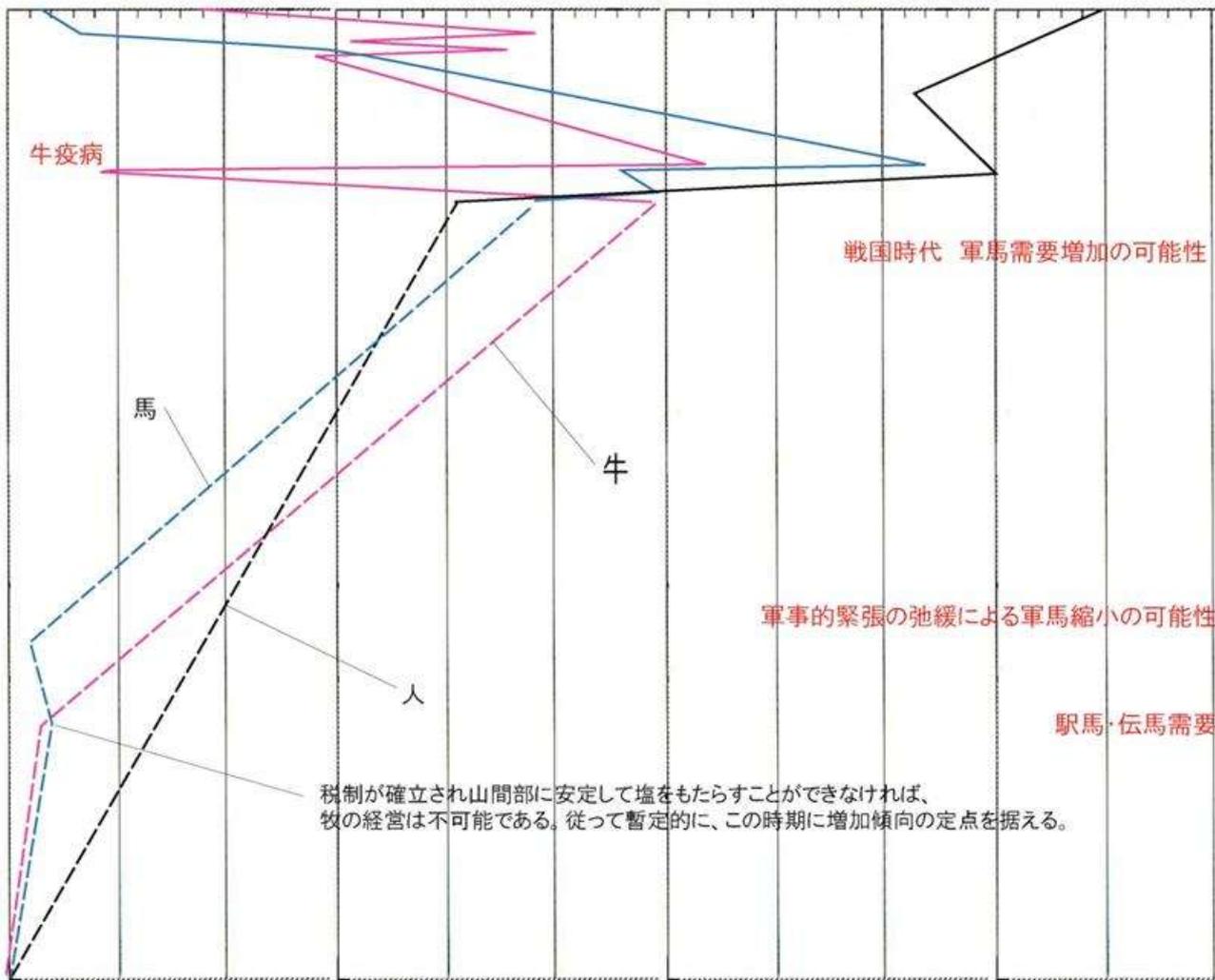
1000

800

600

400

200



現代
近代
近世
中世
古代
古墳

年代  
(AD)

年代  
(AD)

現代  
近代  
近世  
中世  
古代  
古墳  
弥生

2000  
1800  
1600  
1400  
1200  
1000  
800  
600  
400  
200

阿蘇草原利用年表

油粕・大豆粕の購入肥料に変化	入会地
秣・刈敷(草資源) 崔合(原野入会制度)	入会地
最後の下野狩(1582) 草木灰使用 下野狩実施文書(最古1469-1487) 端辺(原野)は大宮司領 狩倉記載(1194-1224) 富士の牧狩り 阿蘇下野牧狩伝梶原氏	狩獵地 半管理
『延喜式』 →二重馬牧・波良馬牧記載 『日本書紀』野は広く遠く、人家無し 条里制施行	局所的 管理草地
	半管理?

8000年前  
30000年前  
~18000年前

縄文早期  
縄文草創期  
後期旧石器

阿蘇史

農地改革 地租改正	入会地
清正、阿蘇氏・坊中復興	入会地
最後の下野狩 古坊中焼失 →守護領国制 →封建制へ	阿蘇大宮司領有
阿蘇十二神 荘園整理令 阿蘇三神 壘田永年私財法 三世一身法 百万町歩壘田計画 条里制施行 班田收授法	荘園牧? 国営馬牧
阿蘇郡擬大領(大宝律令) 阿蘇評督(異本阿蘇系図) 国造(上御倉・下御倉古墳) 首長 中通古墳群 長目塚古墳	

阿蘇牛馬史

牛・馬の減少	食料動物
1893 馬の品種改良	農耕動物
1753 阿蘇山噴火で牛馬死 1694 牛の増加 1638 牛死(牛疫病)馬の増加	農耕動物
甲佐・健軍・郡浦三末社の支配権 ↑	軍事運搬動物
郡浦社文書(阿蘇家文書) 甲佐・健軍・郡浦三社傘下に ↑ 『延喜式』 →二重馬牧・波良馬牧記載 郡浦社創建? 緑川流域 牛骨出土 大宅牧(宇治) ↑ 大宝律令一馬医師記述	通信運搬動物
郡浦の製塩土器遺跡 ↑ 高句麗僧療馬の法を伝える 河内馬飼首荒籠(日本書紀) 一節屋北遺跡から 馬全身骨格・馬具の出土	威信財動物

阿蘇災害史

1832 阿蘇山 噴火でヨナ害 1826 阿蘇山 噴火・大洪水 1821 阿蘇山 鳴動 1753-1779 阿蘇山 噴火 →噴火飢饉 1691 阿蘇山 噴火	
1583 泥流で坊中被害	
1360 阿蘇社 焼亡	
1049 阿蘇社 焼亡	
864 神霊池 沸騰 840 神霊池 水位低下 823 阿蘇山 噴火 796 神霊池 枯涸	
553 阿蘇山 噴火? (隋書)(阿蘇家文書)	

# 阿蘇・くじゅう草原の先史

阿蘇・くじゅうに連なる山麓・高原状の丘陵

約32,000～13,000年前 後期旧石器時代

寒冷な自然環境

遊動生活

主として夏場の活動域

約13,000～2,400年前 縄文時代

温暖化した環境

定住化・定住生活

年間を通しての活動域

狩猟・採集活動を継続

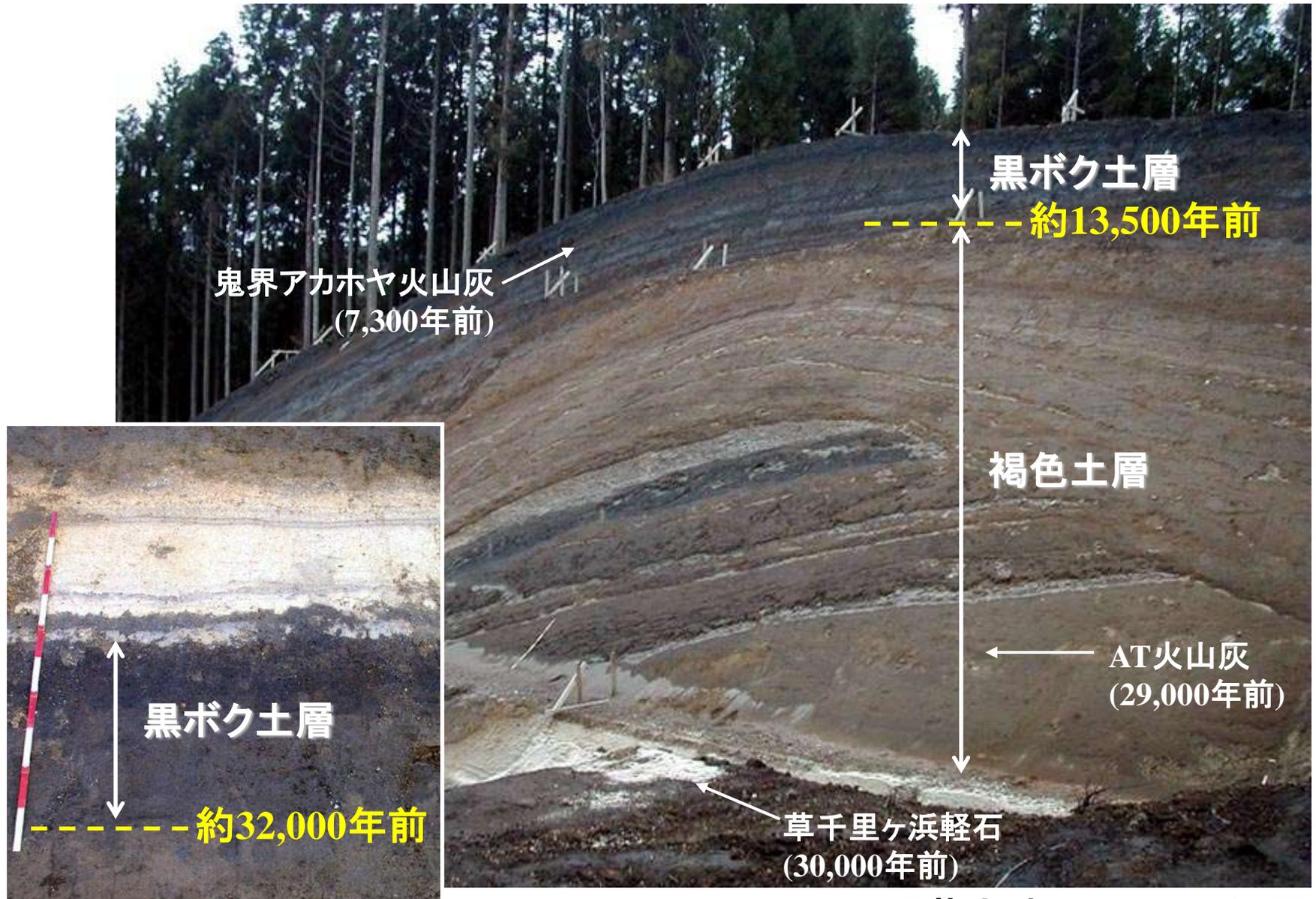
知恵・技術

豊かな資源

有効的活用

自然環境に適応

# 阿蘇カルデラ周辺の火山灰層と土壌



阿蘇市波野のテフラ断面

# 植物珪酸体分析からみた草原の歴史

杉山真二氏  
宮縁氏の共同研究から

珪酸体多い  
黒ボク土層

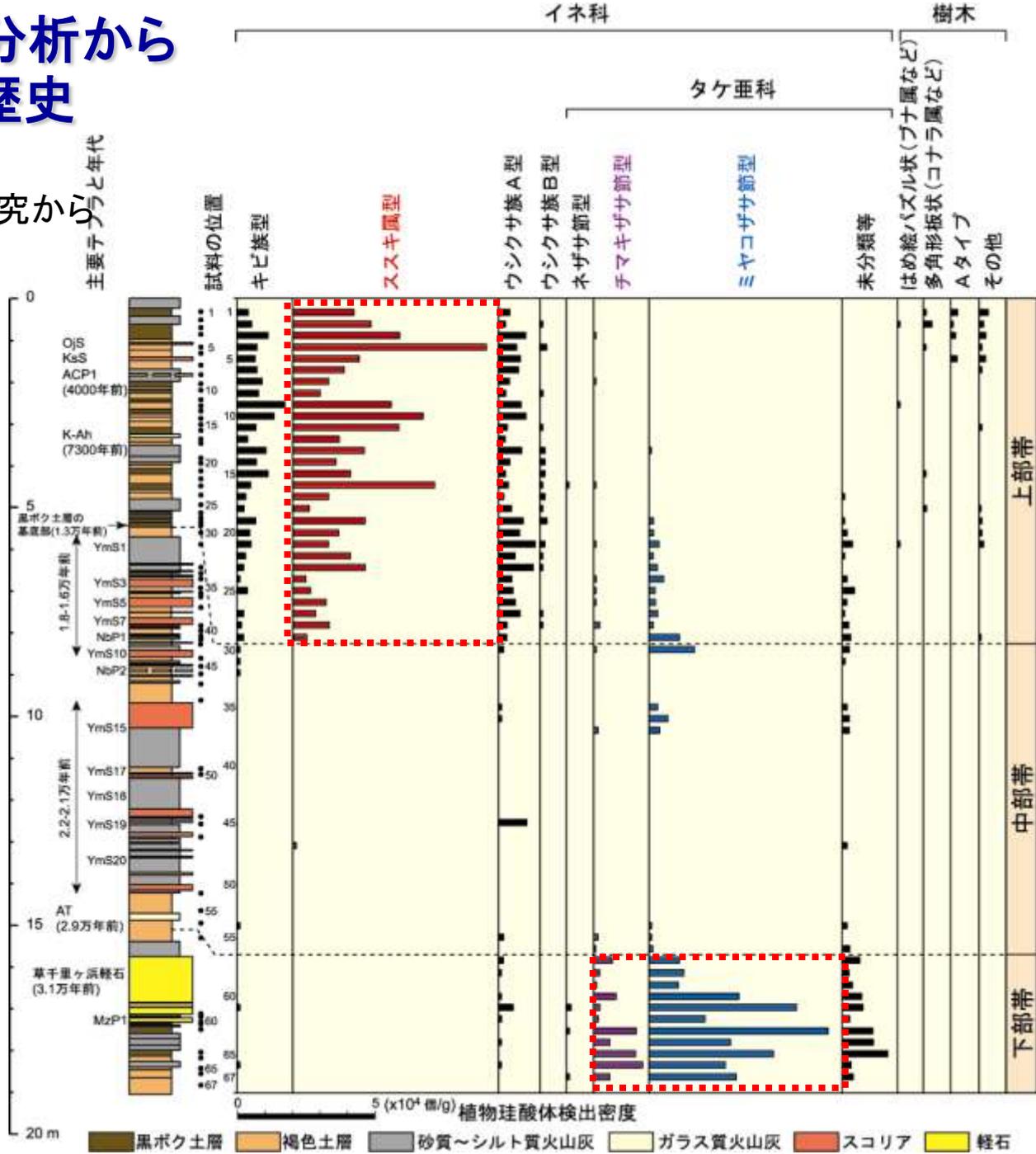
珪酸体少ない  
褐色土層

珪酸体多い  
黒ボク土層

珪酸体少ない  
褐色土層

珪酸体多い  
黒ボク土層

珪酸体少ない  
褐色土層



ススキ草原  
人間活動によるもの?

..... 1.3万年前 .....

寒冷化と火山活動によって  
植生の少ない環境

..... 3万年前 .....

ササ草原

# 自然科学的データによる年表

事件史ではないもの

# 車帰の野焼き



# 下野狩とは



# 狩神事の内容



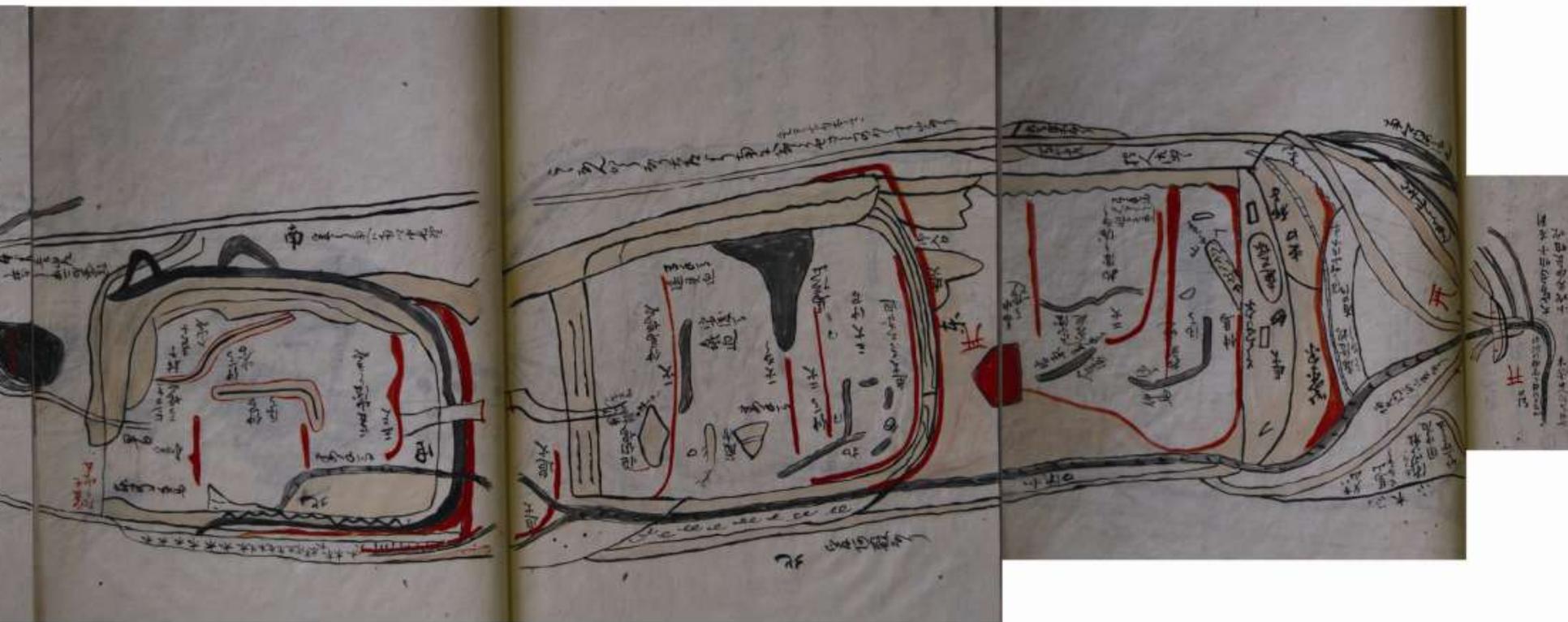
# 狩で火がかけられる



# 下野狩とは

- 行われた時代  
→平安後期～天正6年(1578)
- 富士の巻狩りの原型
- 天正7年(1579)の戦乱で廃絶

# 下野三之馬場図(永青文庫本)



# 鬢搔馬場→中の馬場→赤水の馬場



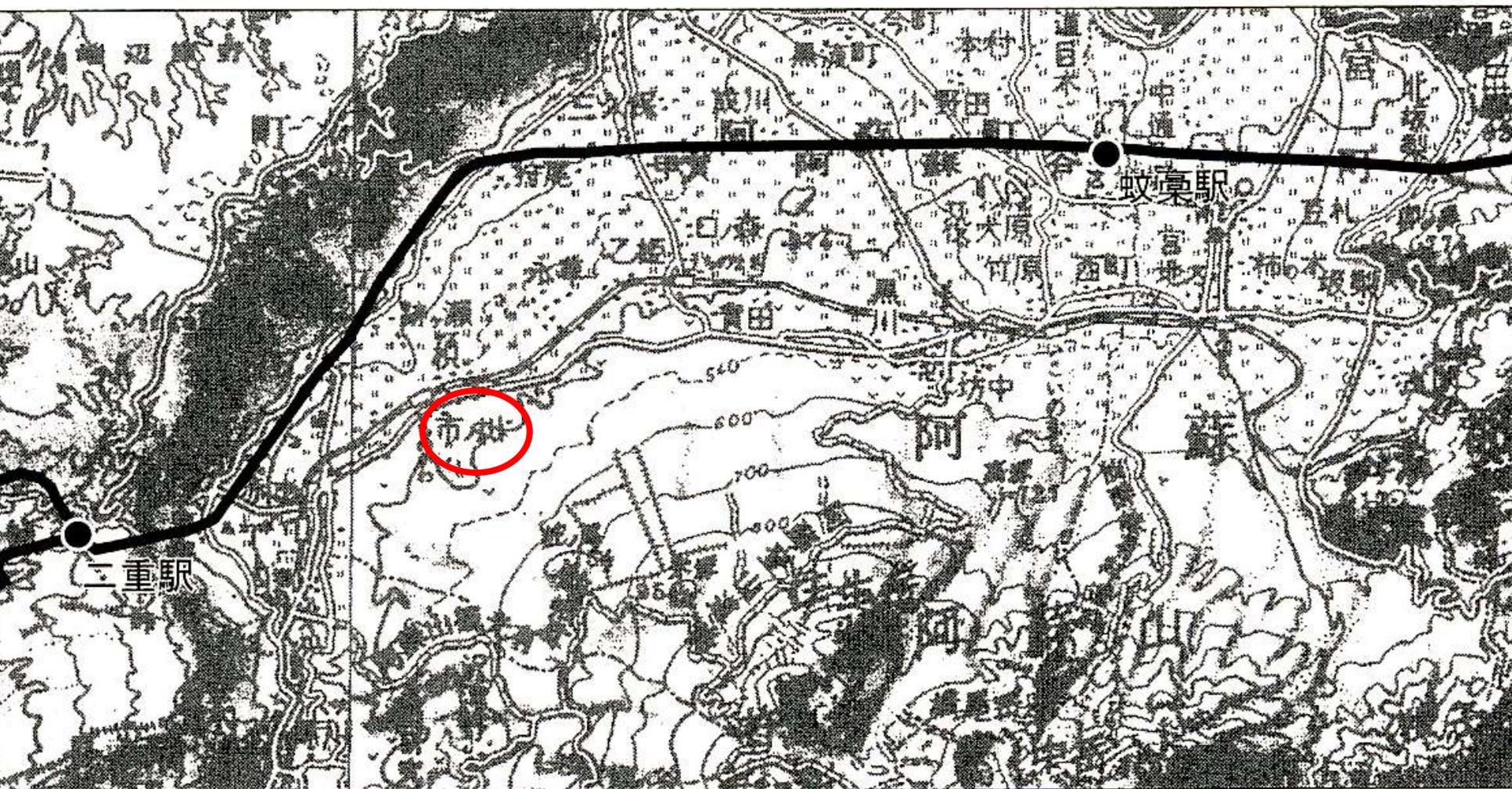
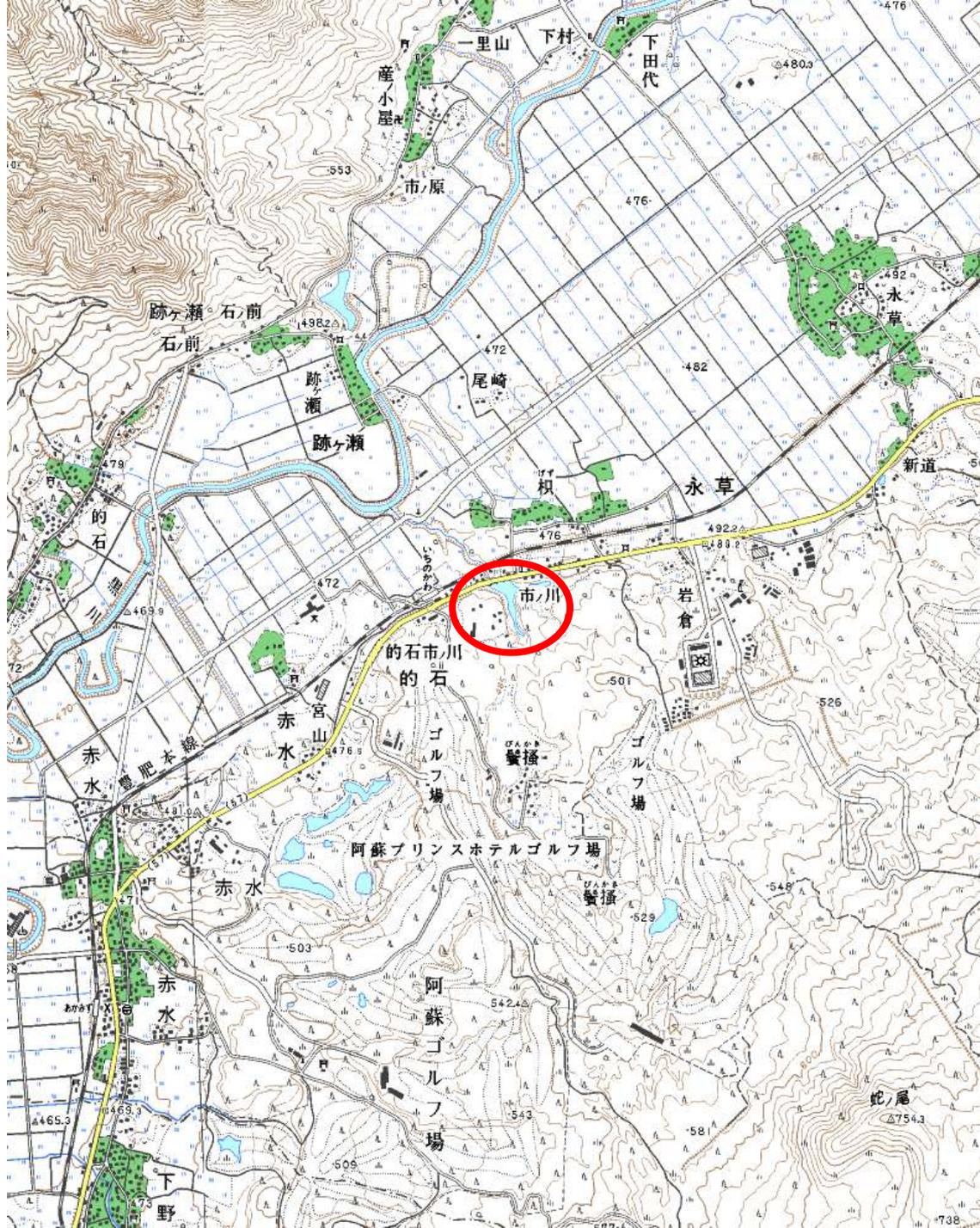


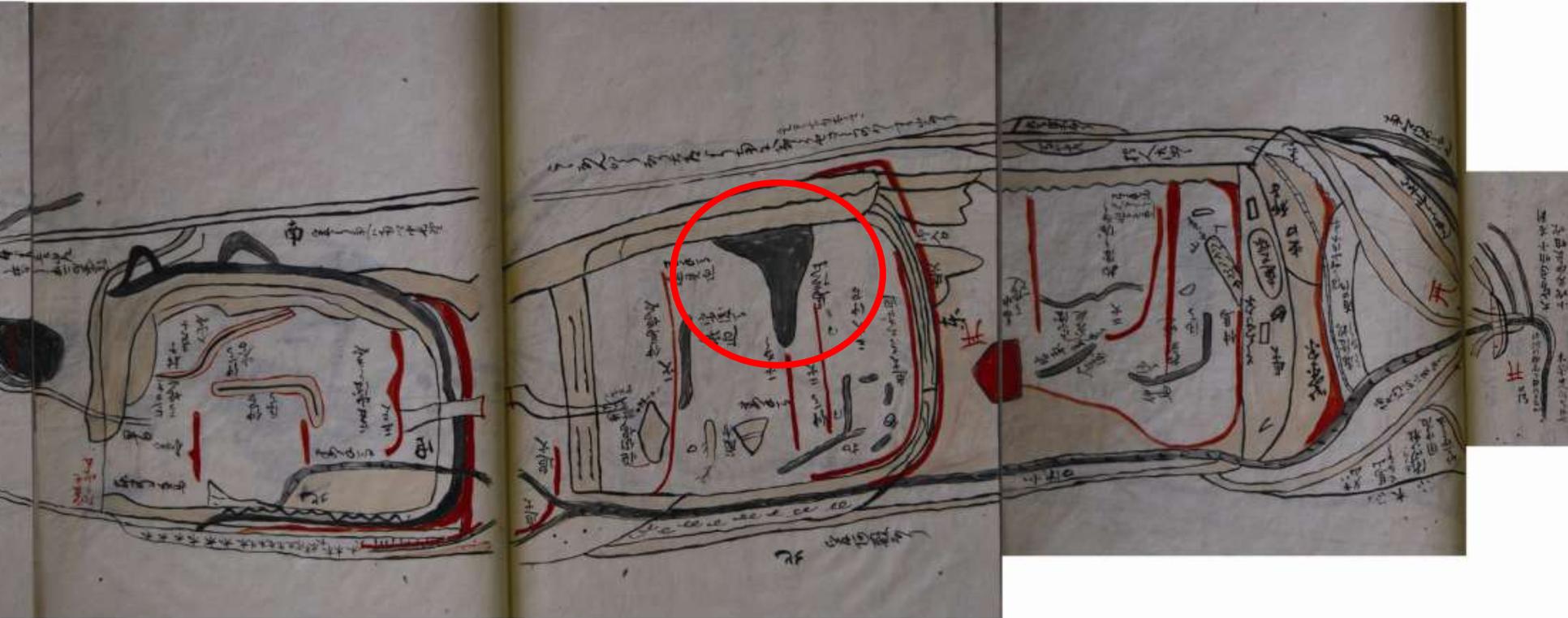
図2 道路関連図 (1) 熊本県阿蘇町周辺







# 下野三之馬場図(永青文庫本)





包井建設株式会社  
No.1 3375000-70-2.00  
C/T 1.75m x 1.75m  
尺  
全長 22.75m  
全径 3.50m  
最大深度 20.60m  
2022.11.11

C/T 14.5m  
3375000-70-2.00  
1 2 3 4 5 6 7

件名	阿蘇市永草地内ボーリング調査業務		
孔番	Bor-No. 1 (永草)		
深度	0.00~20.00m		
施工	株式会社 アバンス 総合地球環境学研究所		



赤水溶岩？



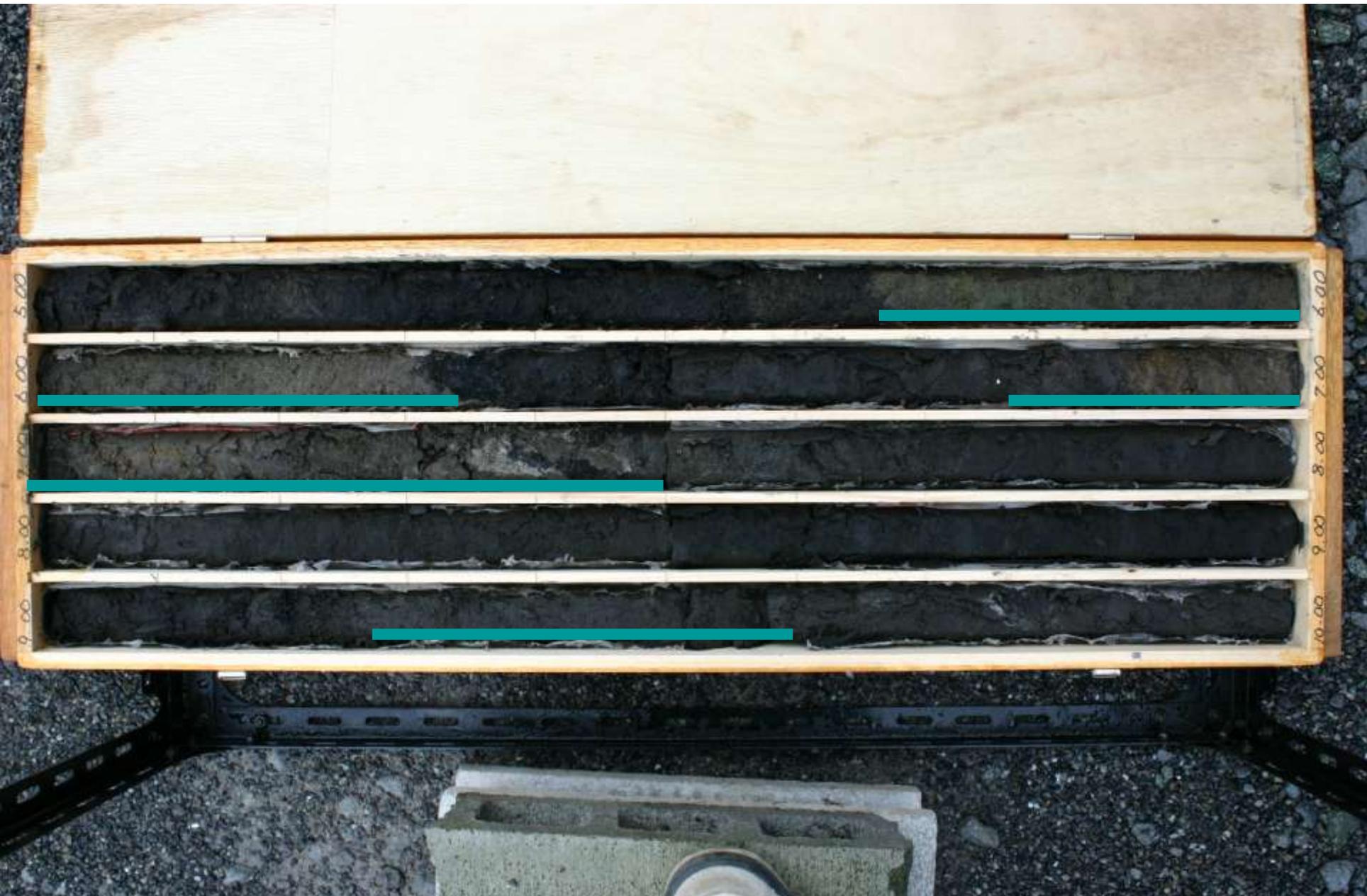
# 欠落補填資料

溶岩

別記  
Gt-2.00  
5  
Gt-3.65

別記  
Gt-20.00  
5  
Gt-20.30







砂礫層

# 民俗データの位置付けと 年代観の付与

# 鬢搔馬場→中の馬場→赤水の馬場





跡ヶ瀬

永草

的  
石

枳

市川

岩倉

吉松神社

的  
石  
市川

元宮遺跡

赤  
水

宮山  
ゴルフ場

赤水神社

古宮道

阿蘇プリンスホテルゴルフ場

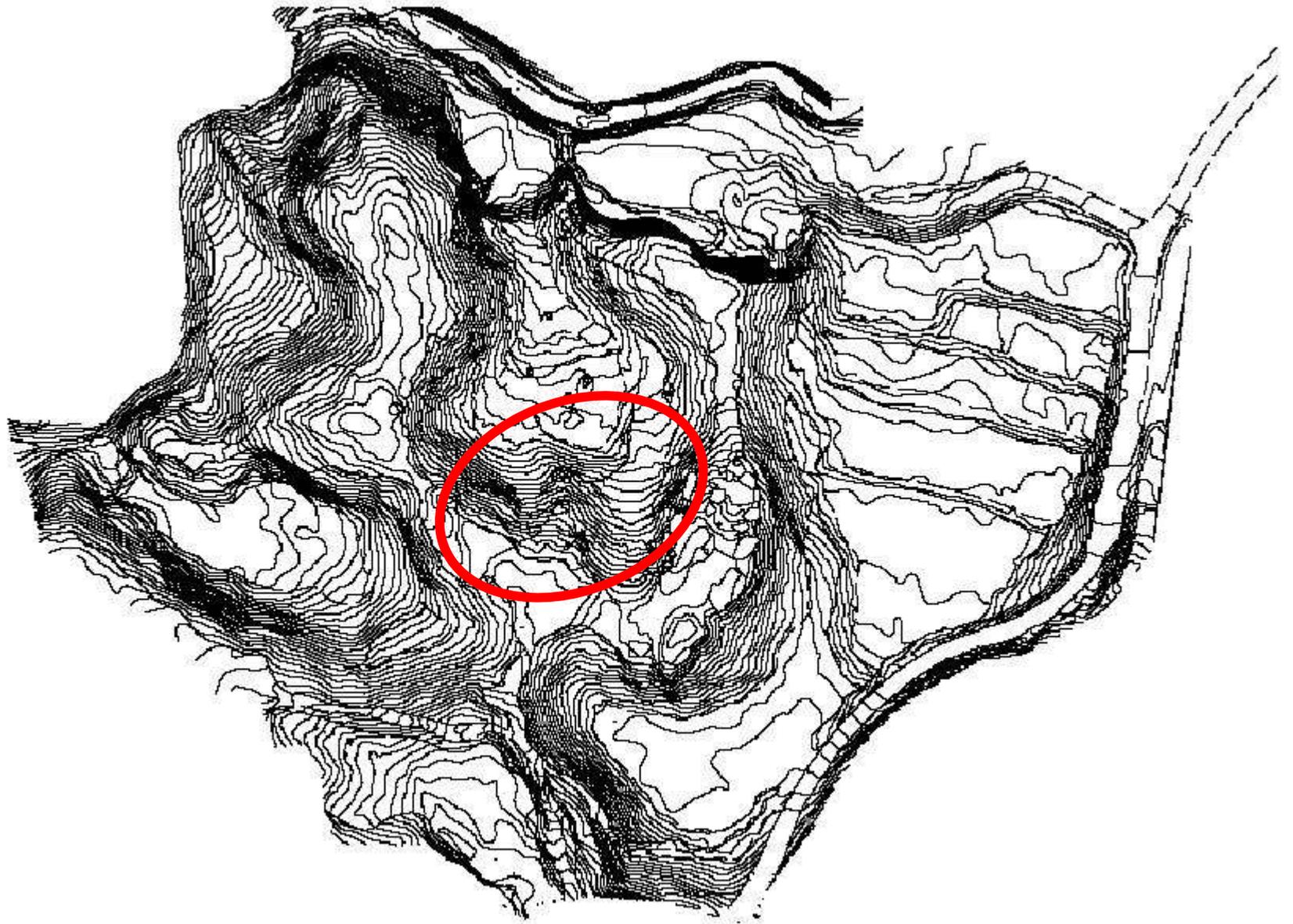
ゴルフ場

赤  
水

びんかき  
鬘

赤

阿



# 吉松社の元宮の檜



# 鷹山の森と阿蘇宮

- 『下野狩旧記抜書』の「阿蘇宮祭祀規則相続状」(南北朝以前)に見える鷹山

下野には三の馬場などの狩場、鷹山の牧などの草地としての「野」が広がるだけではなく、広大な「森」があった。鷹山の地主神吉松明神が保護する木として、「檜木」「槻木」「榎木」がある。

# 鷹山の檜の木

- 檜→歳祢神の五穀の祭(田作り神事)では鷹山の子安河の女躰宮を迎え、五穀を産ませる。その際、女躰の持つ柴(みそ木)として阿蘇宮に運ばれる。

# 槻の木

- 槻は櫟のことである。
- 槻の木は御嶽の本堂、下宮、社頭鹿渡橋の材木として使われる。

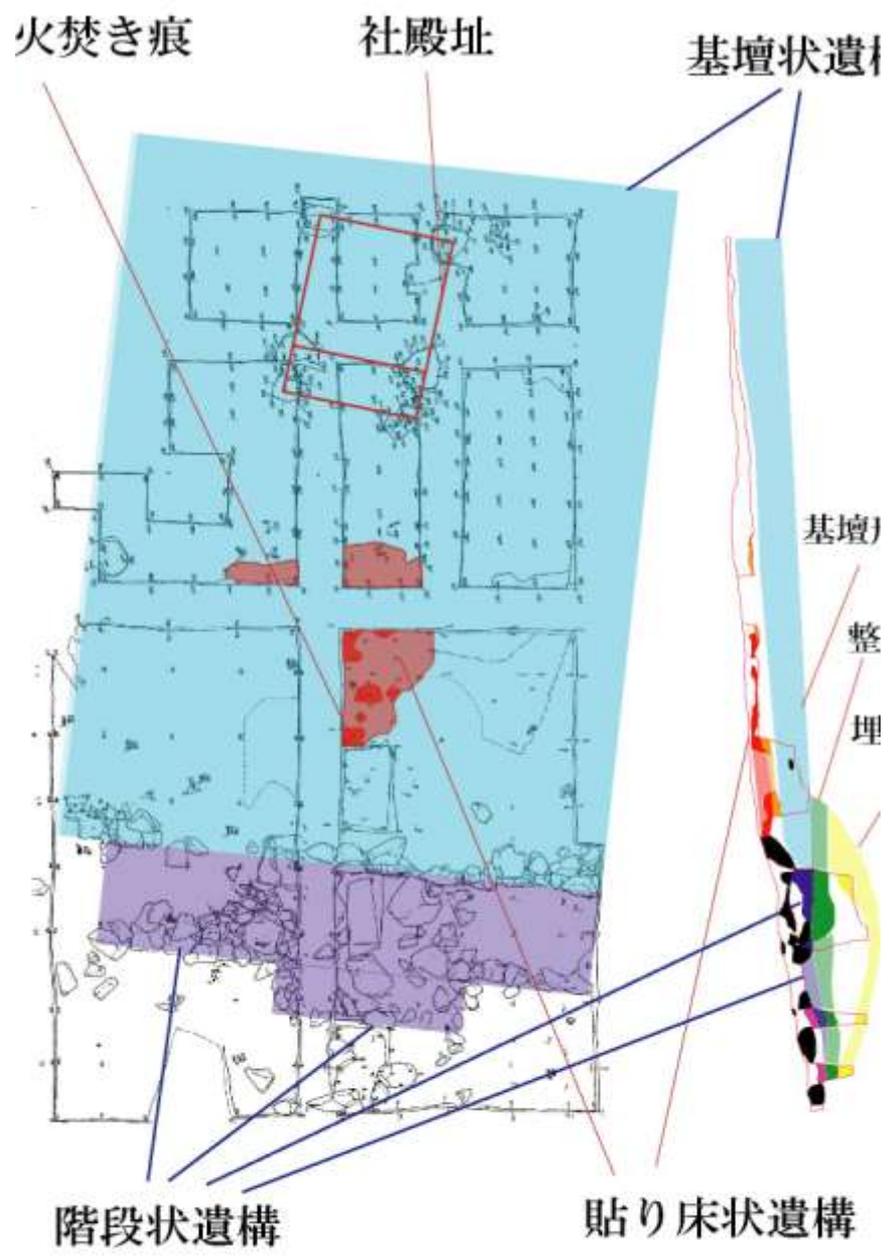
# 榎の木

- 天竺より御嶽の霊池に投げた木  
これを吉松明神が鷹山に植えた。これが宮原  
の榎の木  
→鹿の餌か







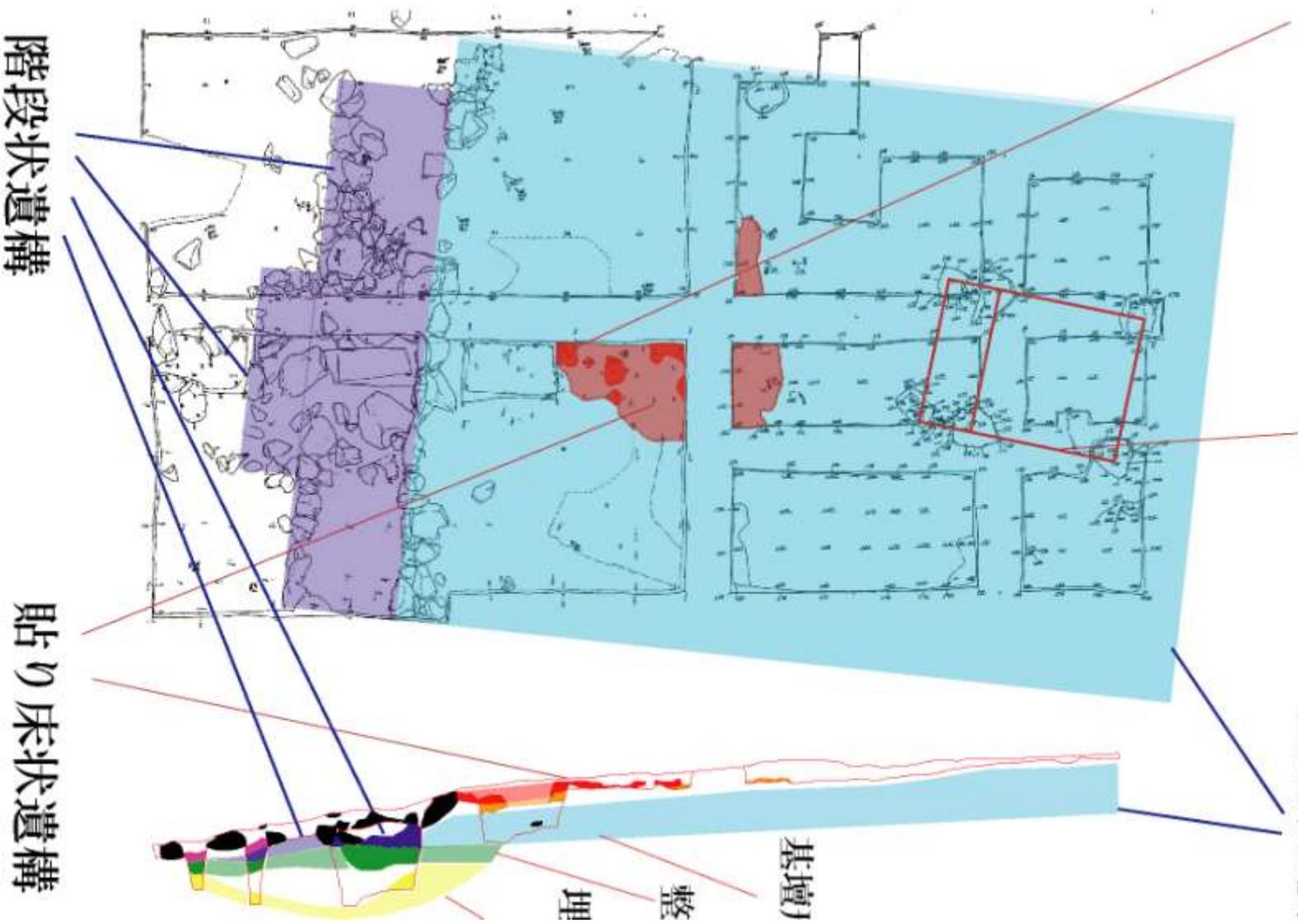


元宮遺構配置図 (1/80)

火焼き痕

社殿址

基壇状遺構



階段状遺構

貼り床状遺構

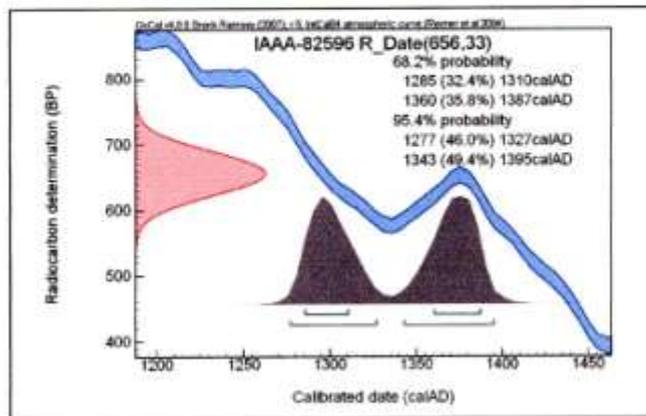
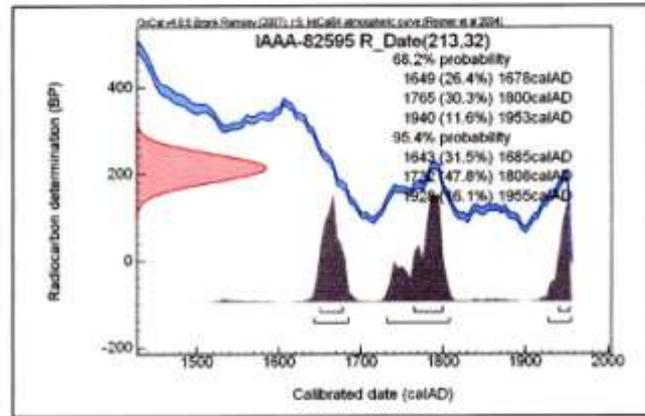
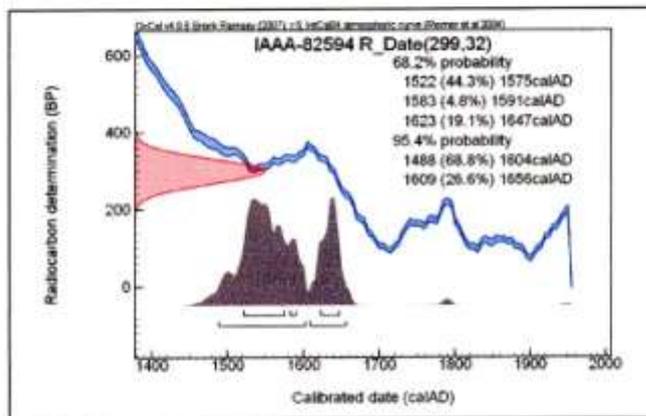
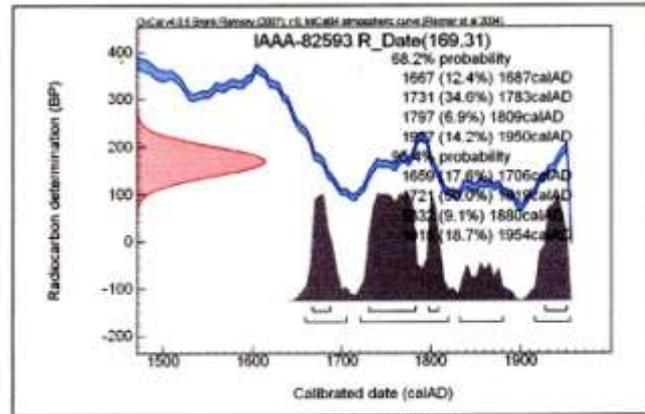
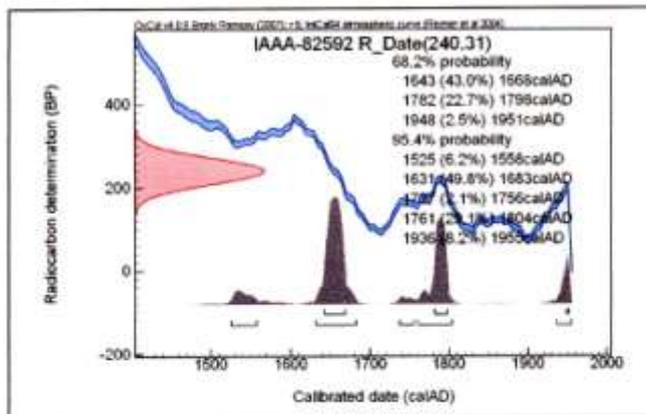
基壇

整

埋

元宮遺構配置図 (1/80)





[参考] 暦年較正年代グラフ

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
<b>IAAA-82592</b>	1	基壇状遺構 サブトレ A 14 層	炭化物	AAA	<b>-20.54 ± 0.87</b>	<b>240 ± 30</b>	<b>97.05 ± 0.38</b>
<b>IAAA-82593</b>	2	基壇状遺構 サブトレ A 20 層	炭化物	AAA	<b>-27.29 ± 0.88</b>	<b>170 ± 30</b>	<b>97.91 ± 0.38</b>
<b>IAAA-82594</b>	3	基壇状遺構 サブトレ B 34a 層	炭化物	AAA	<b>-26.34 ± 0.52</b>	<b>300 ± 30</b>	<b>96.34 ± 0.39</b>
<b>IAAA-82595</b>	4	基壇状遺構 サブトレ A 35 層	炭化物	AAA	<b>-25.48 ± 0.36</b>	<b>210 ± 30</b>	<b>97.38 ± 0.39</b>
<b>IAAA-82596</b>	5	基壇状遺構 サブトレ C 33 層	炭化物	AAA	<b>-26.32 ± 0.73</b>	<b>660 ± 30</b>	<b>92.16 ± 0.38</b>

[#2701]

測定番号	δ <sup>13</sup> C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82592	170 ± 30	97.94 ± 0.35	240 ± 31 1760年前後	1643AD - 1668AD (43.0%) 1782AD - 1798AD (22.7%) 1948AD - 1951AD (2.5%)	1525AD - 1558AD (6.2%) 1631AD - 1683AD (49.8%) 1737AD - 1756AD (2.1%) 1761AD - 1804AD (29.1%) 1936AD - 1955AD (8.2%)
IAAA-82593	210 ± 30	97.46 ± 0.34	169 ± 31 1830年前後	1667AD - 1687AD (12.4%) 1731AD - 1783AD (34.6%) 1797AD - 1809AD (6.9%) 1927AD - 1950AD (14.2%)	1659AD - 1706AD (17.6%) 1721AD - 1819AD (50.0%) 1832AD - 1880AD (9.1%) 1915AD - 1954AD (18.7%)
IAAA-82594	320 ± 30	96.08 ± 0.38	299 ± 32 1700年前後	1522AD - 1575AD (44.3%) 1583AD - 1591AD (4.8%) 1623AD - 1647AD (19.1%)	1488AD - 1604AD (68.8%) 1609AD - 1656AD (26.6%)
IAAA-82595	220 ± 30	97.29 ± 0.38	213 ± 32 1790年前後	1649AD - 1678AD (26.4%) 1765AD - 1800AD (30.3%) 1940AD - 1953AD (11.6%)	1643AD - 1685AD (31.5%) 1732AD - 1808AD (47.8%) 1928AD - 1955AD (16.1%)
IAAA-82596	680 ± 30	91.91 ± 0.35	656 ± 33 1350年前後	1285AD - 1310AD (32.4%) 1360AD - 1387AD (35.8%)	1277AD - 1327AD (46.0%) 1343AD - 1395AD (49.4%)

[参考値]

# 九州地方のケーススタディと通史の 更なる課題

- 近世近代、諸データの収集
- 微視的視点
- 観光史
- 刊行時のサハリン班とのバランス